



金井高校に着任して

～新副校長先生・新教頭先生インタビュー～

昨年度の相羽副校長先生、荻野教頭先生に代わって4月1日に着任された、長瀬副校長先生、諸見里教頭先生。職員室にお伺いして、インタビューをさせていただきました。【聞き手：森】



【写真左】

長瀬 右文 副校長先生

プロフィール

令和8（2026）年4月1日、第11代副校長として、金沢総合高校より着任。数学科。

【写真右】

諸見里 忠 教頭先生

プロフィール

令和8（2026）年4月1日、第23代教頭として総合教育センターより着任。地理歴史・公民科

——本日はお忙しい中、同窓会のインタビューに応じていただきありがとうございます。よろしくお願いいたします。

おふたり：こちらこそよろしくお願いいたします。

——まずは長瀬右文副校長先生にお話を伺います。着任されて1か月余りとなりましたが、金井生の印象はいかがでしょうか。

長瀬：着任当初より感じていましたが、廊下での生徒たちのあいさつがとても気持ちよい学校だと思います。今後もぜひ続けていってほしいと思います。また、部活動についても評判どおり盛んで、放課後もグラウンドや体育館等、活気があっていいと思います。1年生も積極的に加入してほしいと思います。

——先生ご自身について、伺えることがあれば。

長瀬：清水ヶ丘高校と大岡高校の統合準備に携わり、2004年の横浜清陵高校の開校からはずっと総合学科の高校を渡り歩いてきました。普通科の高校は20数年振りになります。

——着任以前に金井高校とかかわりがあったことがあれば、あるいは、着任以前の印象などありましたら。

長瀬：金井高校との関わりは特にありませんでした。金井高校についての予備知識としては、部活動が盛んであること、舞岡高校と再編統合されること、の2つでした。

——金井高校は、5年後の舞岡高校との統合が既に決まっているわけですが、5年後の完校に向けて取り

組んでいかれたいことはありますか。

長瀬：2校の統合がスムーズに進むように調整できたらと思っています。

——これからの金井生に期待すること、取り組んでほしいことはどんなことですか。

長瀬：これまで先輩たちが築き上げたものを、引き続きつないでいてほしいと思います。

——最後に同窓生に向けてメッセージをお願いします。

長瀬：私は日野高校（日野高校と野庭高校が統合して南陵高校になりました）卒業なので、再編統合で母校が無くなってしまうみなさんのお気持ちはわかります。寂しいですね。今は、日野高校の生まれ変わりとしての南陵高校を応援しています。そんな感じで新しい学校を見守っていただければと思っています。

——副校長先生ありがとうございました。続いて諸見里忠教頭先生にお話を伺います。着任されて1か月余りとなりましたが、金井生の印象はいかがでしょう。

諸見里：素直で真面目という印象です。廊下で会うと生徒から挨拶をしてくれる、職員室への入室の際も大きな声でしっかりと用件を伝えることができます。礼節を踏まえた行動をとることができるという印象です。

——先生ご自身について、伺えることがあれば。

諸見里：昨年度まで4年間は総合教育センターに勤務をし、先生方に対して研修を行ったり、教育に関する研究をしたりしていました。それ以前は保土ヶ谷高校に勤務し、地理歴史・公民の授業を行っていました。

——5年後の完校に向けて取り組んでいかれたいことはありますか。

諸見里：5年後に完校となっても金井高校の伝統は新校に受け継がれていきますので、学びを止めずに新たな取組を展開していきたいと考えています。具体的には探究学習や、統合校との交流を深める取組を進めたいと思います。

——これからの金井生に期待すること、取り組んでほしいことはどんなことですか。

諸見里：何事にも全力で取り組んでほしいと思っています。今はあまり必要性を感じないことであっても、将来役に立つことが多いと感じています。

——最後に同窓生に向けてメッセージをお願いします。

諸見里：伝統ある金井高校に着任し、皆様と御一緒できることを大変うれしく思っています。完校となっても金井高校の伝統は受け継がれていきますので、引き続き本校の取組を見守っていただければと思います。何卒よろしく願いいたします。

——おふたりとも本日は貴重なお時間をありがとうございました。今後、笠原校長先生と共に、統合に向けての重要な時期を担っていただくことになるかと思っています。どうぞよろしく願いいたします。